

SUPPORTERS CLUB NEWS

友の会

友の会 会報

TAKAYAMA-UICHI MEMORIAL MUSEUM OF ART

〒039-2501

青森県上北郡七戸町字荒熊内67-94

七戸町立鷹山宇一記念美術館内

鷹山宇一記念美術館友の会

TEL 0176-62-5858 FAX 0176-62-5860

春季二科展

今年も盛況にフィナーレ

鷹山宇一記念美術館の最大の企画展である春季二科展は、今回で四回目の開催となります。県南地方恒例の文化事業として定着し、毎回多くの人々が足を運ぶ展覧会となりました。

友の会は、この展覧会のためオーブニングレセプションへの協力、期間中のボランティアスタッフとしての参加など美術館への協力活動を積極的に実行しています。このような地域と一体となった美術館のありかたは、社団法人二科会からもご理解をいただいております。毎年多くの会員の先生方がオ-

ーブニングセレモニーにいらしてください。

遠路、当美術館までおいでくださった先生方を囲みお話を交わす機会に恵まれるとき、友の会会員としての協力活動以上に、日常経験することのない充実した時間を過ごすことが出来るのです。

今回の春季二科展には二科会常務理事の鶴岡義雄先生に奥様とともにご来館いただきました。レセプションでは多くの友の会会員がご歓談の機会に恵まれ貴重な経験となつたようでした。



レセプションにて、鶴岡先生ご夫妻を囲んで

ご来賓の先生方と懇談して

この度の春季二科展には、メインゲストとして社団法人二科会から常務理事の鶴岡義雄先生ご夫妻、そして会員の西村文男先生がご来館されました。

オーブニングレセプション後、幸いにも両先生と懇談する機会に恵まれました。

鶴岡先生は、最近の春季二科展では「鶴岡の舞妓」として有名な京都を舞台とした連作で多くの美術ファンを魅了しております。

茨城県土浦市のご出身で、生家が素封家で、種々の興業の勸進元を引き受けていたため自然に芸能関係の雰囲気の中で成長されたこと。昨年来館された、織田廣喜先生とともに日本美術学校で学ばれた時代のこと。

当時の画家の多くが軍の報道関係の仕事に携わらざるを得ず、ご自身も関東軍報道班員の資格でハルビンで生活された時代のこと。

戦後の再建二科時代のお話。パリでアトリエを構えられたころのお話等々、一人の芸術家の生涯を通じてのお話に触れることが出来、大変な感銘を受けました。

岩手県水沢市ご出身の奥様もお話に加わっていただき、最後には先生が都々逸をご披露されるという粋な歓談の場となりました。

大変気さくなお人柄で、彫刻を制作する時の様々なお話をしてくださいました。何年もかけて、連作を制作する時は素材となる石材の手当てが大変なこと。作品を運搬する際のご苦労など。興味深いお話を伺ってとても有意義な時間を過ごすことが出来ました。

さらに懇談の場には春季展の、作品輸送・展示等の準備作業で毎回大変お世話になっている(株)東京マルイ美術の吉川社長も同席され、美術展の開催に関わる様々な課題についてお教をいただきました。

全国の美術館・美術展のお仕事をされている吉川氏ならではの事情に通じられたお話。バブルの時期の狂騒的とも言うべきトピックの数々。地方の美術館の運営に関しても大変参考になるアドバイスをいただきました。

このように、春季二科展などの企画展をきっかけとして多くの方々が遠路美術館においでになり、貴重なお話をされるということは大変に有益なことと思われます。今後ともこのような出会いを大切にしていきたいと思えます。

西村先生は春季二科展では、赤花崗岩を素材に浮雲と羊の群を表現した彫刻作品が強く印象に残っています。実際監視ボランティアをしておりますと、この雲と羊の作品の前で立ち止まりじつと見つめてから立ち去る来館者が毎年おられます。

山本洋一
(友の会会長)

初の宿泊研修旅行を実施

通算で第五回目を数える美術館友の会の研修旅行。今回は東京国際美術館で開催された鷹山宇一先生の卒寿記念展を是非とも訪れたいとの会員の熱望に於いて、初めての宿泊研修を実施しました。飛行機を利用し宿泊はホテルと、従来とは趣を異にする研修となりましたが、団体旅行の利もあり

非常に内容の濃い二日間を過ごすことができました。特に卒寿展においては鷹山ひばりさん・広田くるみさんのご案内のもと、鷹山先生の未発表の作品やデッサンを鑑賞することが出来、また引き続き訪れたファースト立川ではプランナーの北川フラムさんがお忙しい中を同行され、解説をしてい

鷹山宇一画伯卒寿記念展鑑賞の旅

瀬川新吉

1階、油彩画展示室



平成十年五月九日(土) 東京国際美術館で開催の、七戸町名誉町民であり、二科会の重鎮鷹山宇一先生の、卒寿展参観の為、美術館友の会一行十六名は、山本会長、大池学芸員の案内で三沢空港出発となった。幸いに卑月晴れの好天に恵まれ、気分爽快、羽田空港を経て、電車で新宿経由、京王線そして、国際美術館到着、先生の御息女鷹山ひばりさん、広田くるみさん、お二人に迎えられる美術館の前で全員記念写真を撮る。

の非常に見晴らしの良い場所にある。早速松井館長の挨拶を頂き会場に入る。さすが会場も作品の陳列も要を得て立派である。一階は油彩の大作が八十五点、整然として飾られているが、先ず受付で館長の奥様と女性の係員から説明を頂いて一巡する。

た作品は丁度受付の背後に当たる広い展示室の正面に、百二十号位の大作「波濤の歌」で、館内をバツと明るくする様な波の変化と緑と青の明るい海が描かれ、その重量感溢れる表現力にはただ圧倒されるばかりであった。その前面には青森県所蔵の「海濱の花」が飾られてあったが、暗黒のバツクの中に一際鮮やかに真紅のバラが咲いて気持ちを明るくしてくれ、またもう一点は「緑園の静物」という作品。これも私の大好きなものの一つで何時までも心をとらえて放さない。

一時間半程一点一点心に刻み込みながら鑑賞させて頂いたが幸いに会場は混雑という程でもなく、充分距離をとりながら観ることが出来た。

うには、書道の最初は基本として永字八法から習い、やがて楷書、草、かな体等と勉強の手順があるように、画家もデッサンをよく学ぶことにより構画的なもの、感覚的なもの、心象の表現力等々、いろいろな要素が磨かれ花開くものと痛感したところであった。今回は鷹山先生卒寿記念鑑賞の機会に恵まれ。本当に思い出に残る眼福を沢山頂いた旅だったと感謝に堪えない。最後に鷹山先生のご健勝を心からお祈り申し上げ、更に白寿記念展も見せていただけのことを念じながら、

いただきました。さらに翌日には鷹山美術館の理事である吉野毅先生のアトリ工にお招きをいただくという望外の機会に恵まれ、充実した思い出に残る研修となりました。お世話になりました皆様に心より御礼申し上げます。参加した会員より多くのレポートが寄せられました。あまりに内容豊富のため二回に分けて掲載することといたしました。

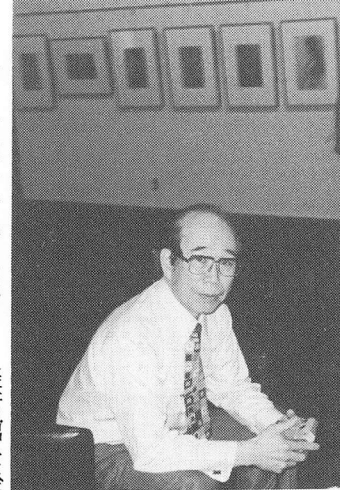


離れながら観ることが出来た。一階の大作揃いの会場を出て二階の会場に入る。作品点数は八十点という。主にデッサン、版画等未発表の作品が沢山展示されており鷹山先生の若かりし頃、多感な時代の、内に秘めた情感とひたむきな創作意欲をうかがい知ることが出来たような感じ。その非凡な才能と併せてデッサンによる撓まぬ努力の結晶と感銘を深くした。風景のデッサンを始め、魚類、果物、機械、鳥、虫・人物、顔や裸婦等々、森羅万象をモチーフ

フに描く描写力、特に独自の感覚で描く裸婦の曲線の美しさを余す所なく表現し、命の誕生を秘めた描写力に深い感動を覚えすには居られなかった。人それぞれ観方に依って絵から受ける感じ方も異なると思うが、私も書家の端くれとして自分なりに思

美術館を後にした。尚、この度の催しを企画された関係者各位にも深く感謝の意を表したいと思う。思いつくままに一句しじみ蝶

翠蛙



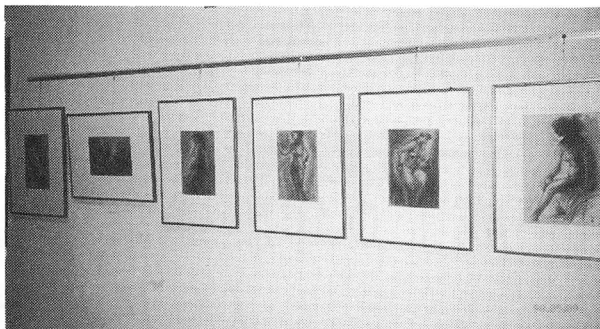
今回の研修旅行の
“公式カメラマン”
奥山俊介さん
ちよっとひと休み。

研修旅行のひとこま

photo: 奥山俊介さん

←初公開のデッサン

右より鷹山ひばりさん、松井館長ご夫妻、
↓ 阿部洋子さん、広田くるみさん



お昼から
盛りあがってます!!

吉野先生 アトリエ

訪問記 盛田 駿造

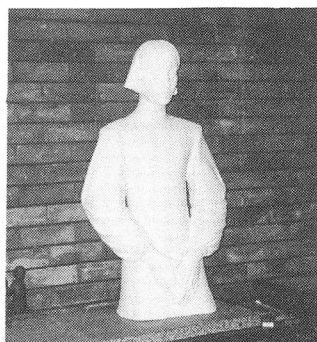
望外の喜び、参加した一人の会員は皆さんそう思い、感激に浸ったひとときでした。卒寿展そしてフアーレ立川と予定通り見学、充実した研修に満足してホテルに着いたところ、鷹山ひばりさんからお電話を頂き、吉野先生から明日に自分のアトリエに来ないかとの誘いがあった旨お知らせ下さり、さっそく皆さんに連絡、十一人が訪問することになりました。

地下鉄都営十二号線の新江古田駅まで吉野先生が出迎えて下さり、アトリエまで五分位で着きました。小さい方が先生のアトリエ、大きい方が奥様のお父様(分部順治・日展参事・彫刻家)のアトリエで、今大きいものをつくっているのを見てもらいたいと云って大きい方のアトリエに案内して下さいました。

中央に粘土の立像(ある企業の亡くなった創業者)。一、八メートルある像がモ

デル台の上に乗っているの
で、下から少し見上げる感
じです。依頼主が写真を沢
山持ってきたが、どれも真
面目すぎて人間味に欠ける
ので面白くない。それで講
演のビデオテープから撮っ
た写真が非常に人柄がでて
いるようなのでそれを使っ
ている、とおっしゃってそ
の写真を見せて下さいまし
た。写真そのものは非常に
写りが悪いのですが、そこ
から人物の人間性を抉り出

「懐」の石膏像



す彫刻家の確かな眼を思わ
ずにはいられませんでした。
依頼主が見て非常に似てい
るし人柄が良く出ていると
絶賛して帰ったそうです。
また、七戸の美術館にも
展示されている先生の「懐」
の石膏像がありました。そ
して今まで創った作品の写
真を拝見しましたが、その
写真の中にこの少女のシリ
ーズがありました。この作
品にはモデルはありません
と先生はおっしゃっており
ましたが、爽やかな初夏の
風を思わすような、あるいは
また清楚で静謐なムーブ
メントは観る人の心に素直
に入ってゆきます。私の大
好きな作品です。

吉野先生アトリエの玄関にて

左より吉野先生、奥様、
初代館長夫人小原はるえさん



写真の中には珍しいもの
がありました。三島由紀夫
の裸像です。ボディール
と剣道で鍛え上げた見事な
肉体を誇示している彫刻で
す。休憩中に三島由紀夫は
片手腕立て伏せをして、自

分の肉体をことさら先生に
アピールしたそうです。
棚の上に在る西洋人の頭
部の石膏像を指して先生は
「これは宣教師ザビエルだ
けれども、以前ザビエルが
日本に上陸した地にザビエ
ル像を創った(写真を拝見
する)が、何年たつてもど
うも顔(頭部)が違うよう
な気がして仕方がなかった。
それでこのザビエルの頭部
をあらためて創った」とお
っしゃっておりました。彫
刻家の心の中で作品が変化
してゆくのか、成長してゆ
くのか分かりませんが、何
か芸術家の秘密の一端を垣
間見たような気がしました。

最後は先生自慢の「墨壺」
のコレクションを拝見し、
一同滅多に見学できないア
トリエ訪問、そして先生の
ご好意に感謝してアトリエ
を後にしました。

友の会理事

吉野毅先生

(一九四三 千葉県生)

社団法人二科会

彫刻部会員

財団法人鷹山宇一

記念美術振興会理事

報 告

鷹山宇一記念美術館友の会 平成10年度通常総会 (6月6日)

平成10年度の通常総会が、平成十年六月六日(土)に美術館工房で開催され、平成九年度事業報告並びに余剰金処分案が承認されました。平成10年度の事業計画と収支予算案も原案どおり承認されました。又、役員改選では、向中野輝子、同所圭悟のお二人が退任、下山恭美子、奥山洋一のお二人が新任、その他の役員は全員再任されました。余剰金処分案の中で六月十三日から開催される「アントニオ・ガウディ展」に協力することとして、会員一人宛前売券一枚を購入することが承認されました。又、昨年に引き続き絵画購入積立金に十万円を積立することも承認になりました。積立金の累計は三十万円になります。研修旅行について、今年度は五月九、十日に鷹山宇一卒寿記念展に初めて一泊研修を実施しましたが、参加した会員から初めて公開された鷹山先生のデッサンの素晴らしさが報告されました。秋の研修旅行は津軽地方を計画しております。会員は六月五日現在、法人会員十九社、個人特別会員六十人、個人一般会員百三十一人ですが、友の会のさらなる発展と基盤強化のために皆様のご協力をお願いいたします。

■議案第3号 H10年度事業計画並びに収支予算案承認の件

収支予算書(案)

平成10年4月1日～平成11年3月31日

収入の部		単位：円	
科 目	内 訳 科 目	金 額	摘 要
前期繰越金		210,431	
会費収入		1,360,000	法人 400,000 特別 600,000 一般 360,000
雑収入	預金利息	500	
収入合計		1,570,931	

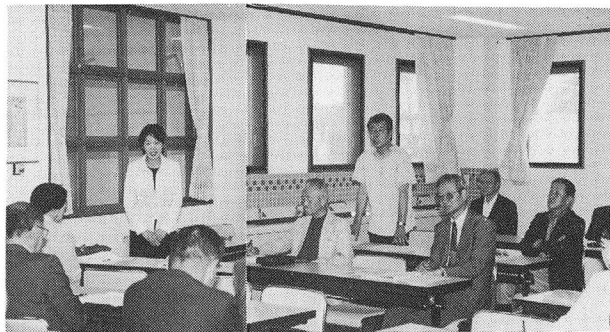
支出の部		単位：円	
科 目	内 訳 科 目	金 額	摘 要
事業費		971,000	
	助成金	624,000	法人 192,000 特別 288,000 一般 144,000
	印刷費	252,000	会報印刷費
	研修費	65,000	研修他
	雑費	30,000	画集購入
事務費		234,500	
	会議費	25,000	総会 役員会
	通信費	161,000	会報発送 その他
	消耗品費	3,000	事務用品等
	諸手数料	5,500	郵便局振替手数料
	慶弔費	30,000	祝儀 その他
	雑費	10,000	反省会等
支出合計		1,205,500	
予備費		365,431	繰越金 210,431 剰余金 155,000
合 計		1,570,931	

■議案第1号 H9年度事業報告並びに収支決算書承認の件

資 産 勘 定		負 債 ・ 繰 越 金 勘 定	
科 目	金 額	科 目	金 額
現金	16,000	前受会費	710,000
預金	1,360,591	10年度分	695,000
青銀・七戸	804,891	11年度分以降	15,000
郵便・七戸	355,700	未払費用	40,460
監理人積立金	200,000	小 計	750,460
前払費用	4,300	絵画購入積立金	200,000
		前期繰越金	171,810
		当期剰余金	258,621
		小 計	630,431
合 計	1,380,891	合 計	1,380,891

収支決算書 平成9年4月1日～平成10年3月31日

支 出		収 入	
科 目	金 額	科 目	金 額
事業費	837,613	会費収入	1,316,000
助成金	604,800	雑収入	874
印刷費	221,813		
研修費	11,000		
事務費	220,640		
会議費	26,100		
通信費	153,995		
支払手数料	5,460		
消耗品費	15,085		
慶弔費	10,000		
雑費	10,000		
小 計	1,058,253	小 計	1,316,874
当期剰余金	258,621		
合 計	1,316,874	合 計	1,316,874



■議案第2号 H9年度余剰金処分案承認の件

議案第2号 平成9年度剰余金処分案承認の件

1	前期繰越金	171,810	円
	当期剰余金	258,621	〃
	計	430,431	〃
2	次の通り処分したい		
	絵画購入積立金	100,000	円
	ガウディ展協賛引当金	120,000	〃
	次期繰越金	210,431	〃
	計	430,431	〃

■議案第4号 理事・監事改選

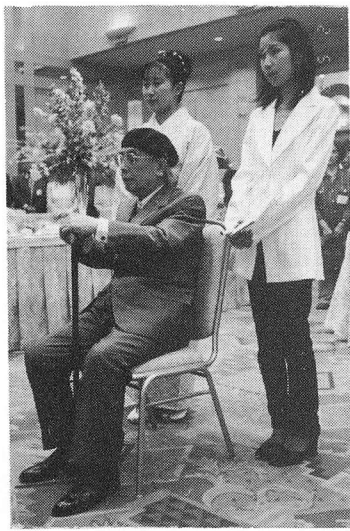
役職名	(任期は平成10・11年度)
会 長	山本洋一
副会長	盛田恵津子
理 事	盛田駿造 奥山雅子 石田清剛 宮沢公生 高田ヨネ 盛田隆造 (以上再任) 下山恭美子 奥山洋一 (以上新任)
監 事	盛田茂樹 西田京子 (以上再任)

鷹山宇一 記念美術館 NEWS & REPORT

1998.6 第10号

鷹山宇一卒寿記念展から

お孫さんに囲まれて 「茶話会」での鷹山先生



鷹山宇一先生の卒寿を記念し、四月二十九日(水)から東京都多摩市の東京国際美術館に於いて開催されていた記念展は、五月十七日(日)お陰様にて盛況のうちに終了しました。今展では、鷹山先生の初期から現在までの油彩画のほか、これまで一般には未公開となっていたデッサンや、昭和初期に制作された木版画などが展示され、今までにない大個展となりました。特に力や工など海の生物や四季折々の草木花日常の食卓に上る果物、また、街の風景、裸婦などを精密に描きつづけてきた描いたデッサンは、鷹山ファン、美術関係者のみならず多くの来館者を唸らせたもので、まさに「鷹山芸術の舞台裏を見よう」といっても過言ではありません。

この卒寿展開催にあたり、五月二日(日)京王プラザホテル多摩に於いて催された「茶話会」の出席者、また、友の会研修旅行参加者は関係各位に於いて、鷹山先生から次のような挨拶をいただきました。ここで紹介したいと思います。

が開催できる
とは、只々感
謝いたすのみ
です。

今、来し方
を振り返りま
すと、消し去
りたい恥ずか
しいこと、
ばかりであ
りますが、
たった一つ
私には自負できる「絵描き
魂」がございます。それは、
自分ほど、デッサンを勉強
した者はいないだろう、と
云い切れることであります。

若い時から、売り絵作家
だった私は、自分の研鑽の
場として、五十代までの間、
何千枚ものデッサンを描き
続けて参りました。仕事の
合間をみては、写生をした
り素描をしたりして、昆虫
も植物も本物を見て観察す
る訓練ができたお陰でしょ

うか、私は花と蝶を描く作
家になれました。
そして、有り難いことに、
今もなおきちんと蝶を描か
なければ、一つの作品を作
り上げていくことができま
せん。若い時の蓄えが、血
となり肉となって、九十歳
の私の仕事を支えてくれて
いるのです。

吉井勇が「長生きも芸の
内」と云いましたが、天賦
の才を持った友が早世して
行ったなか、長寿を得られ
た私は、郷里で美術館を造
ってもらえたり、今年の正
月には地元の新開社より、
栄えある賞を頂戴したりし
て、晩年になって大きな喜
びが押し寄せて参りました。

願わくば、今日の私の心
情が如何ばかりか、お汲み
取り戴ける日があれば、こ
れに優る嬉しさはございま
せん。

絵筆一本の正々堂々の人
生を歩ませて戴き、本当に
有り難うございました。

皆様方の上にも、大きな
幸せが訪れますよう、心よ
り祈念いたしております。
平成十年五月二日
鷹山 宇一
合掌

美術講演会 のお知らせ



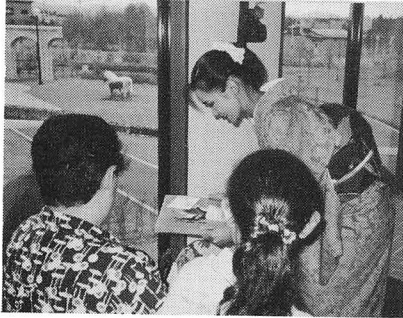
『彫刻の はなし』

吉野毅先生
今年の春季二科展会場にて

- 講師
二科会彫刻部会員
吉野毅先生
- とき
平成10年7月5日(日)
午後2時から
- ところ
鷹山宇一記念美術館
2階工房
- 定員
30名ほど
- 申込み&問合せ
随時美術館まで
TEL0176(02)5858

◆吉野毅先生…一九四三年千葉県生まれ。一九六七年東京
芸術大学彫刻科卒業。一九六九年東京芸術大学大学院修了。
一九七四年「科会会員」となる。一九八二年「科展」で賞受賞。
一九八五年「科展」で賞受賞。現在「二科会彫刻部」会員、
評議員。(財)鷹山宇一記念美術振興会理事。

有り難う ございました



お呈茶の会場にて

春季二科展開催中の四月
二十六日(日)、淡交会十和
田青年部さんによるお呈茶
が行われ、美術館に彩りと
潤いを与えてくださいまし
た。今回で三回目となるお
茶のおもてなしを、楽しみ
にいらっしやるお客様も年
々増えております。

この度、お茶のサービス
でお客様からいただいた料
金を、「美術館でお役立て
下さい」とご寄付ください
ました。十分に活用させて
いただきたいと思います。

絵描きになりたいと、こ
の道を歩み始めて七十五年
の歳月が流れました。作品
一点一点を、今見入ると、
当時の思いが走馬燈のよう
に駆け巡って参ります。

若い頃の、拙く稚ない
未熟な作品、酔った勢いで
描いた不謹慎な作品と、こ
の歳になって初めて判る力
量であります。このよう
な作品を長い年月にわたっ
て、お預かり下さいました
方々のお陰で、この卒寿展

春季二科展

オープニング (4/24)
レセプションから
ご来賓・主催者の
ごあいさつを
ご紹介します

（社）二科会を
代表して

日本芸術院会員
二科会常務理事

鶴岡 義雄 先生

皆さん、ようこそお集まりくださいまして有り難うございます。

春の二科展も当地で何回か開催されてきて、今回もまた盛大に、春の二科展をこのように賑やかに開催できましたことは、先輩の鷹山先生、並びに、これだけ素晴らしいこの文化施設すべてに力を入れてこられた、今日お見えになつてゐる当

地の町長さんをはじめ、関係の皆さんのお力添えが実つた結果と思つております。私は生まれて初めて青森の地を踏んだのですが、もう既に何回か来たような感じでおりまして。東京ですうと一緒にな長く二科会の先輩としておつきあい願つて今日まで来ました鷹山先生との関係もありまして、それから、ここにいらつしやる鷹山先生のお嬢様でもありますひばり君が、二科会の事務を長年やってくれておりましたので、家族のようにつきあつておりまして……また、いろいろな関係でこちらにお馴染みのある先生方もおります。そういういろいろなことが積もつておりまして、何か青森県へ来たというより、自分の知り合いとか先輩とかの「幻想」といいますか、第二の故郷とまでいいたくないんだけれども、「ごく近い関係の文化施設へ来た」という感じですね。

うな関係で今日は女房もこちらへ誘われまして来ました。そういうわけで、私も非常に気分が爽快でございます。

昨日着きまして、しばらくここ（美術館）で休憩したんですが、新幹線の駅がすぐこの目の先に出来るようになります。これは大変なことになると思いますよ、この地は。というの、これはもう青森県全体の名物の文化都市になるのではないかと……要するに、そうなつた時には、青森県が誇るべきひとつの文化施設の先駆の町というのかな、そういう予感がしましてね。そうすると、東京を出てここへ来るのは、ほんとに七戸へ日帰りも出来るというような可能性もあるんじゃないかと思つたし、とにかくこれだけのいろいろな設備を見ましてね、これは羨ましいという感じがしました。こちらの関係筋の人ももちろん張り切つてゐるでしょうし、また、（会場の）皆さんも大いにこの鷹山美術館を中心とする施設、将来駅が出来た時のことなどいろいろありますから、ひとつ盛り上げてもらつて……。私も何回でも来たいです、ここは。おそろくここは青森県の文化都市になりますから、中心的な感じのところに位置することになると思います

から、地元の皆さんをはじめめとしてますますね、盛り上げてもらつて、町を中心の一つの文化都市という感じが開けていくように、お力を添えていただいで、東北全体のひとつの文化の中心になるように、大いに将来の発展を期待いたしておりますので。東京からも我々どんどんこつちへ来やすくなると思います。

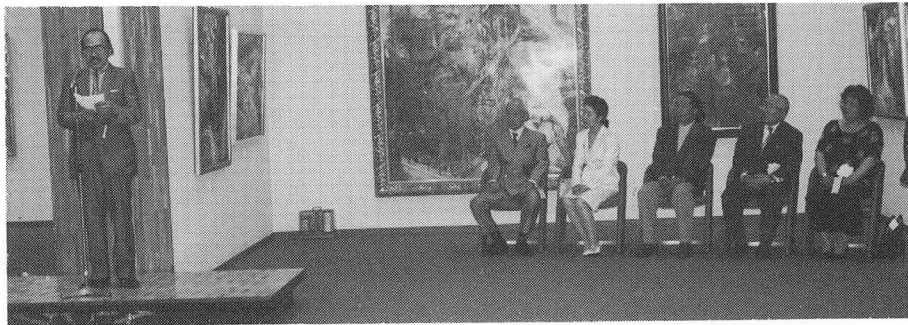
二科の方も頑張ります。ますます国際的な色彩を多くしまして……。ここで二科の特徴を一言一々二分申し上げますと、「常に世界と共に歩く」というひとつのカラーがございまして、東郷青児が最初で、これ以来伝統的に「常に世界と共に」と、こういうスローガンの下に集まつた団体でありまして……。今年九月の二科展に、天皇皇后両陛下もお見えになります。それから、ポルトガルと日本の友好が五百年になるそうで、先日、ポルトガル大使館を通じて、ポルトガル政府と二科会が正式契約してきました。私責任者なものですから……。つまり、ポルトガルとの国際展を二科のスローガンどおり今年やります。というような特徴のある会になります、我々一同も張り切つております。

いろいろな傾向の絵がありまして、非常に自由自在。抽象もあれば具象もあると……、具象かと思うと今度その中に立体派の画風が入る……。それから、彫刻しかり。彫刻も非常に二科の絵とともにいろいろな傾向がありまして、彫刻の方は、近代性といえますか国際色が強く、ここ二三年前から特にますます内容のいい二科会の彫刻部門ですね。そういう特徴が顕著になつてきまして、二科会は油絵、彫刻、それから写真。写真部門もなかなか活躍していますね。秋山庄太郎とかね、大竹省二……。かなり写真の方のレベルは高いですよ、全国的に。そういうことで絵と彫刻と写真、デザインもあるんです。この四部門が二科会の特徴でありまして、今後もそのシステムで世界に向かって発展していこうと、交流を続けていこうというような会でございますので、どうぞひとつ皆様にも今後ともご理解というか、まず見てもらうことが一番、絵と彫刻をですね。来て、見ていただくというのが、交流を重ねるということになりますので……。

今後の当地のご発展、当施設が中心となる、青森県の名物となるように願つておりますが、皆さんでひとつ頑張つていただいで、ますます発展していただくようにしていただけることを心待ちにして、私のご挨拶がら、二科展の解説めいたことを報告いたしました次第でございます。どうもご静聴有り難うございました。



レタランメンの鶴岡義雄先生



レタランメン会場にて(右から)鷹山副理事長、福士七戸町長、西村文男先生、鶴岡義雄先生、令夫人、鶴岡義雄先生、池田支部長

二科会彫刻部を 代表して

二科会彫刻部会員

西村 文男 先生

僭越であります。吉野先輩に代わりまして西村がご挨拶申し上げます。彫刻部では、毎年東京近郊の先生方にお願ひいたしました。十五、六点の作品を出品させていただきます。素材的にはブロンズあり、木彫あり、石彫ありで、バリエーションに富んだ展示になつていきたいと思います。

この自然に恵まれました七戸の美術館の中で、彫刻たちがうれしそうにしているように思いました。私は、これで三回出品させていただきました。赤い御影石でこのところ羊を彫っております。まあ、それがかわいいのか良いのか分かりませんが、作品の方は良く覚えていたしております。西村当人はこういう顔をしております(笑)。

この七戸の春季展も今回で四回目ということで、今後もますます発展されますよう祈念いたしまして挨拶に代えたいと思ひます。どうもこの度はおめでとうございました。

二科会青森支部を 代表して

二科会青森支部支部長
池田 恭三氏

七戸町立鷹山宇一記念美術館が創立されてから、四周年になります。心からお祝ひを申し上げます。

春季二科展が初めて東北の地に参りましたのも、美術館創立と同時にあります。身近に理事長はじめ、会員の作品を鑑賞できることは東北では七戸町だけであり、毎年この幸せの栄を賜り深く感激しております。また、七戸町のご厚情をいただきまして、二科会青森支部展を併催させていただきます。大変励みと糧になつております。心から感謝申し上げます。お陰をもちまして、毎年二科初入選、並びに今年はお友推挙が誕生いたしました。本当に有り難うございました。

鷹山宇一記念美術館は、東北文化の振興に大きな役割を果たしております。さらにご活躍ご発展をお祈り申し上げます、私の挨拶に代えさせていただきます。

主催者を代表して

(財)鷹山宇一記念美術館
副理事長
鷹山 ひばりさん

春季二科展を開催するにあたりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

本日ご列席の皆様方におかれましては、ご多用のなか、本年四回目を迎える春季二科展レセプションにご出席を賜りまして、厚く御礼申し上げます。また、東京より二科会常務理事・鶴岡義雄先生並びに奥様、彫刻部会員・西村文男先生のご出席を仰ぎ、誠に有り難く御礼の言葉もございません。

鶴岡義雄先生は、戦後再建された二科会に彗星の如くあらわれ、二科賞、青児賞、内閣総理大臣賞を立て続けにご受賞され、戦後の二科会の立て役者として活躍をされました。また同時に、フランスのサロン・ドートンヌの会員となられ、日仏芸術振興にお力を注がれて、「新しい芸術の波」ヌーヴェル・ヴァーグ作家「パリジェンヌの鶴岡」と称され、日本が世界に誇る作家として輝かしいご足跡を残されていらつしやいます。近年、日本芸術院会員にご就任され、現在、二科会の重鎮として、また、永久に女性美を探索する作家として活躍されていること

とは、皆様ご承知のとおりでございます。開館いたしたばかりの年若のこの美術館に、このように現代日本を代表するご高名な先生にお出掛けいただきましたことは、美術館の歴史に華々しい一ページを飾ることは無論のこと、我が町七戸、いえ青森県にとりましても大変栄誉あることと、当財団を代表いたしまして心より歓迎いたし、また厚く御礼を申し上げます。

明日から始まる春季二科展をご覧いただく皆様方に、心のやすらぎ、明日への希望、また、芸術を志す若者の大きな道標になりましたら、私も主催者はこれに勝る喜びはございません。そしてまた、併催されております青森支部展の作品にもどうぞ忌憚のないご高説を賜りたく存じます。激励のご支援を頂戴いたし、父・鷹山宇一を育てあげてくれました先達の如く、ここにそろうております地元作家を育み、お力添えをいただければ、何よりも幸せと存じております。最後に本日ご出席の皆様、会期中お立ち寄りください。皆様を祈念いたします。本日の私の挨拶にかえさせていただきます。本日は誠に有り難うございました。

「まるで憂気楼のように」

花松 貞司

何時からか分からない。何故ということなく、二科展という名の響きが好きになつてきた。そして、二科展は東京に出掛けて見るものとはばかり思つてきた。

それが今、七戸町・鷹山宇一記念美術館で見る事が出来る。不思議でならない。私は、七戸町で二科展を見ることが出来ると思つて出掛けた心踊りを、今思い出すとすれば、さ程の困難を伴わず、まさまじと思ひ浮かべることが出来る。そしてその時の感動は、「テリリー東北に書いたが、それは、「遠い追憶の世界に誘う」と題して、今も手元にある。

さて、今回も、いそいそとそれこそいそいそと出掛けたが、「魚の売れない日」(東郷たまみ氏)には感心させられた。そのタイトルの上手さである。タイトルがこんなにも絵そのものにまで深い陰影を与えるとは知らなかつた。また、西健吉氏の「二人の漁師」の前で暫しの時間をすごした。漢詩文の挿し絵でよく見かける、あの枯淡の世界に、この油絵は少しも引けを取つていない、と思つた。

さらに私は、例えば吉井淳二氏や織田廣喜氏あるいは園田都夫氏の前で立ち止まつた。一回目の時には通り過ぎた人達である。前回通り過ぎたことした巨匠たちの絵の前で、私のように足を止める人が多くいるなら、それこそ、文化普及の担い手として、美術館の果たす役割はさらに増すことと思つた。

見終わつて、国道四号を南下し、やがて倉越の信号で車は止まつた。

その時、私は自然に、おそろくは自分の生涯の中でも最も自然に、後ろを振り返つた。そして、今見てきたものはなんだつたのか、と思つた。あの豊かさは何だつたのか、と思つた。

それは、まるで憂気楼のように、私の脳裏に浮かんで来、しかし、容易には消え去ろうとはしなかつた。

(青森県立三本木高等学校教諭)



レセプションでの西村文男先生

次の企画展

第58回国際写真サロン

平成10年7月25日(土)〜8月23日(日)

全日本写真連盟・朝日新聞社主催第58回国際写真サロン写真展、今年も美術館で七月二十五日から八月二十三日迄の約一ヶ月開催されます。今年は開催初日に審査員のお一人で全日本写真連盟関東本部委員長の日橋義雄先生をお迎えして講演会も行ふ事になりました。昨年はサロン展だけでしたが、どなたか写真家の先生をお招きして作品の

講評も聞けたらとの声に、全日本写真連盟青森県本部(鎌田清衛委員長)の事業としてこの講演会が実現しました。作品を見ながら、審査に携わった先生の講評が聞けるまたとない機会ですので、写真愛好家の方はおちろんですが、写真とはどんなものか?写真は今の様に進化しようとしているのか?ご覧頂ければと思います。

十二点、イスラエルの五点、ドイツの四点と続いています。国内では大阪の十一点を筆頭に京都、兵庫、福岡各四点の入選が続きました。これら入賞作品展である今展は、新宿コニカプラザ(四月二十二日から三十日迄)を皮切りに、全国二十九所で開催されます。

【日程】 平成10年7月25日 17時から19時迄

【会場】 鷹山宇一記念美術館

【入館料】 700円

【主催】 日橋義雄 先生

【協賛】 関東本部委員長

【総計】 二、三二点の応募がありました。国内では大阪の五四八点を筆頭に、愛知二九五点、東京二六八点、福岡三二点、三重二二五点と続きました。

審査は十二名で行われ、海外八十点、国内五十点、合計百三十点が入賞の栄誉を受け、この中から審査委員特別賞六名(海外、国内各三名)が選ばれました。海外の入選は中国の十三点を最高に、応募点数が増えたベトナムの

【国際写真サロンの歴史】 一九二七年(昭和二年)に全日本写真連盟が創立事業として朝日新聞社と共催で海外に応募を呼びかけ、十五カ国が参加、第一回が開催されました。一時中断しましたが、一九五〇年から毎年開催されています。審査委員長は、秋山庄太郎先生です。

【全日本写真連盟】 略称、全日写連は一九二五年(大正十四年)に創設され

【審査委員特別賞・竹尾康男氏(宮崎県)「ちよと矢礼(カフ)」

美術館日誌より

【三月】

◆春季二科展表敬訪問 (銀座松屋・七日)

◆二科会常務理事鶴岡義雄先生宅を訪問(同日)

◆当財団の浜中達男常務理事、佐藤巨理事の二名が、春季二科東京展会場を訪れ七戸展開催のお願いと鶴岡義雄先生の来町をお願いしました。

◆美術館理事会・評議員会を開催(二十九日)

◆当財団の理事会と評議員会が開催され平成十年年度の事業計画及び収支予算案等が審議されましたが、全議案とも満場一致で可決承認となりました。

【四月】

◆美術館応援のお葉書を頂く(十三日)

八戸市在住の久保孝夫様より、新幹線駅着工予定の七戸町や美術館に対する応援のお葉書を頂きました。書中こんな詩が寄せられていた

た写真愛好家の団体で、朝日新聞社が後援する全国的な組織です。写真文化の発展と会員の親睦を図り、写真を通じて社会に貢献する事を目的として、写真コンテスト、ゼミナルなどを行って

◆お茶会を開催(二十六日)

◆お茶会を開催(二十六日)

◆お茶会を開催(二十六日)

◆お茶会を開催(二十六日)

◆お茶会を開催(二十六日)

◆お茶会を開催(二十六日)

◆お茶会を開催(二十六日)

◆お茶会を開催(二十六日)

◆お茶会を開催(二十六日)

◆お茶会を開催(二十六日)

◆お茶会を開催(二十六日)

◆お茶会を開催(二十六日)

◆お茶会を開催(二十六日)

◆お茶会を開催(二十六日)

◆お茶会を開催(二十六日)

◆お茶会を開催(二十六日)

◆お茶会を開催(二十六日)

◆お茶会を開催(二十六日)

◆お茶会を開催(二十六日)

◆お茶会を開催(二十六日)

ましたのでご紹介致します。幻妖の宇一恋しや 七戸めざし我が心飛ぶ

◆春季二科展オープンングレセプション(二十四日)

◆春季二科展表敬訪問(銀座松屋・七日)

◆二科会常務理事鶴岡義雄先生宅を訪問(同日)

◆当財団の浜中達男常務理事、佐藤巨理事の二名が、春季二科東京展会場を訪れ七戸展開催のお願いと鶴岡義雄先生の来町をお願いしました。

◆美術館理事会・評議員会を開催(二十九日)

◆当財団の理事会と評議員会が開催され平成十年年度の事業計画及び収支予算案等が審議されましたが、全議案とも満場一致で可決承認となりました。

◆お茶会を開催(二十六日)

◆お茶会を開催(二十六日)

◆お茶会を開催(二十六日)

◆お茶会を開催(二十六日)

◆お茶会を開催(二十六日)

◆お茶会を開催(二十六日)

◆お茶会を開催(二十六日)

◆お茶会を開催(二十六日)

◆お茶会を開催(二十六日)

◆鷹山宇一卒寿記念展を開催(二十九日〜五月十七日)

◆春季二科展表敬訪問(銀座松屋・七日)

◆二科会常務理事鶴岡義雄先生宅を訪問(同日)

◆当財団の浜中達男常務理事、佐藤巨理事の二名が、春季二科東京展会場を訪れ七戸展開催のお願いと鶴岡義雄先生の来町をお願いしました。

◆美術館理事会・評議員会を開催(二十九日)

◆当財団の理事会と評議員会が開催され平成十年年度の事業計画及び収支予算案等が審議されましたが、全議案とも満場一致で可決承認となりました。

◆お茶会を開催(二十六日)

◆お茶会を開催(二十六日)

◆お茶会を開催(二十六日)

◆お茶会を開催(二十六日)

◆お茶会を開催(二十六日)

◆お茶会を開催(二十六日)

◆お茶会を開催(二十六日)

◆お茶会を開催(二十六日)

◆お茶会を開催(二十六日)

◆お茶会を開催(二十六日)

◆お茶会を開催(二十六日)

ガウディ展ボランティア・スタッフを募集

期間は6月13日(土)から7月5日(日)まで、期間中は無休です。スペイン民芸資料館及び回廊と美術館第1・第2展示室が会場となります。貴重な展示品の安全確保と来館者の案内のために館内の監視にあたるスタッフが必要になります。現在、平日の監視スタッフが特に不足しております。協力できる時間内で結構ですので本物の芸術に触れながらボランティア活動してみようとお思いの方はぜひ美術館までご連絡下さい。(TEL 0176-62-5858 FAX 0176-62-5860)

6月13日(土)～7月5日(日) 会期中無休

会場：鷹山宇一記念美術館第1・2展示室、スペイン民芸資料館、回廊

*第3展示室、ランプ館、絵馬館は通常通りの展示を行っております。

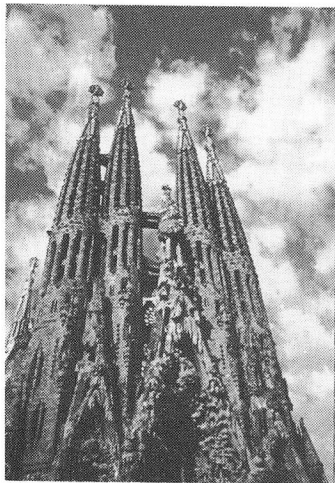
お詫び

他会場との日程調整の都合で会期が変更になりました。

お詫びして、訂正いたします。

ガウディの代表作。彼は晩年、他の仕事をいっさい断りこの仕事に力を注いだ。残された図面や模型を元に、今も建設が続けられている。

(1883)ガウディは、聖書の一字一句を刻み込もうとしていた。「石の聖書」といわれる由縁である。



アントニオ・ガウディ展 in 七戸 開催に向けて

アントニオ・ガウディ展in七戸実行委員会主催による本展は、鷹山宇一記念美術館の協力により実施するもので、文化観光立県を目指す青森県やスペイン民芸資料館を有する七戸町にとっても絶好の文化的刺激になるものと考えます。

七戸町立鷹山宇一記念美術館は、スペイン民芸資料館を併設しています。常設展示としてスペイン各地から集められた陶器コレクションを見ることができます。また館内にはガウディのデザインによる椅子が置かれています。これら陶器作品を寄贈したのが、今回のガウディ全国巡回展を取りまとめている北川フラム氏です。七戸とのご縁は古く、今から10年前に開催された「アバルトヘイト否!国際美術展 in 七戸」も氏の声かけによるものでした。この時も地元の有志で実行委員会を結成し運営にあたりました。更に遡って17年前、七戸中央公民館にて「ガウディ展」を開催しています。七戸町にはガウディという名前に懐かしさを覚える人も多いのです。

今年2月にガウディ展をやるか打診を受けたとき、このような背景を持つ私たちは、ガウディ展を開くことに必然性と喜びを感じ、前向きに検討し実行委員会を立ち上げました。今展で七戸とスペインを繋ぐ新しい物語を作れることを確信しております。ぜひご高覧下さい。

アントニオ・ガウディ展 in 七戸実行委員会



アントニオ・ガウディ

(一八五二—一九二六)

スペインのカタルーニヤ地方生まれ。建築家。サグラダ・ファミリア教会やウエリ公園、カサ・ミラ等がある。自然界に形を求めた彼

の作品は直線のほとんど見あたらない有機的な建物ばかりでどれモ一目で彼の作品だと分かる。日本ではバルセロナオリンピックの時にガウディの名が広く知られ、ファンも多い。

ガウディの生まれたカタルーニヤ地方からは他にモヒカソ、ミロ、ダリ、カザルスといった二〇世紀を代表する芸術家が生まれていきます。それぞれ少なからずガウディの影響を受けて育つたといえます。

入館料について

今回の「アントニオ・ガウディ展 in 七戸」の入館料は鷹山宇一記念美術館通常の入館料とは異なり左記の通りとなっております。

- 一般/八百円
- 高・大学生/四百円
- 小・中学生/二百円

友の会の方は通常通りの手続でご入館になれます。

◆法人特別会員

会員証提示により、本人を含め四名まで入館

◆個人特別会員

会員証提示により、本人を含め二名まで入館

◆個人一般会員

招待券は有効です。会員証提示により、割引料金でご入館できます。

☆☆☆☆グッツ

期間中、スペインから直輸入したガウディグッツを販売いたします。マグカップやカレンダー、スカーフなど。

七戸オリジナルのTシャツやポストカードも準備中です。お楽しみに!!

友の会結成五周年記念

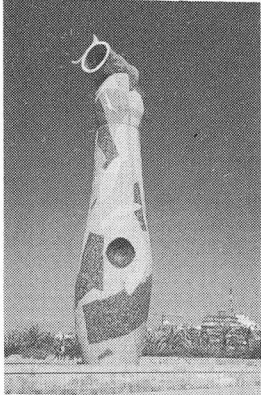
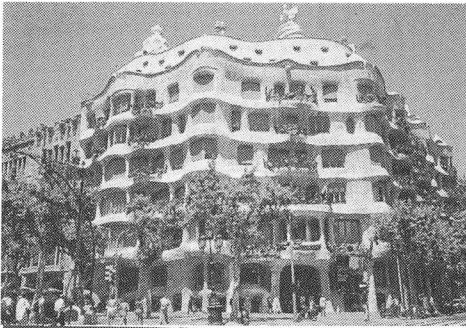
スペイン美術館巡りの旅

企画案 第三報

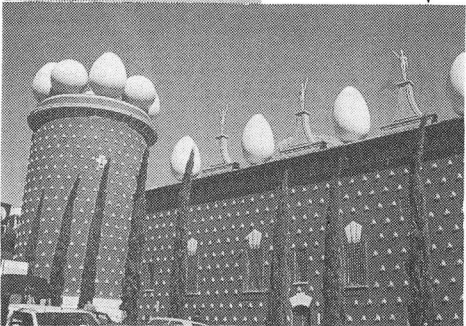
ガウディ展が開催されることとなり、この美術館もスペインの匂いがするようになって参りました。否が亦でも旅行への夢や憧れが広がって参ります。アンケートのご回答ありがとうございます。大勢の皆様の声頂き、よくよく計画を練ってご満足のゆく旅行にしたいと思っています。

さて今回は紙面わずかですが見どころなどご紹介いたします。

バルセロナには名所多く時間がかかりますが、ガウディが街そのものをキャンパスとして、その才能の証を、あちこちに残しておられます。サグラダファミリア教会は



↑カサ・ミラ(バルセロナ)
←ミロ美術館(バルセロナ)



まだ完成されていませんが、地下には最終案の模型があります。カサ・ミラやグエル公園、建築家ガウディを実際に確かめ、触れてみたいと思います。近くには彼がインスピレーションを得たモンセラットという巨岩の地があります。

幼少の頃から天賦の才を發揮し多くの芸術家に影響を与えたピカソ。

明るい色彩と独特のフォルムの作品が多いミロ、生と死の芸術家ダリ。それぞれ美術館散策。夜はやはりフラメンコ専門のレストラン「タブラオ」で楽しみましょう。マドリッドは王宮を中心に見てまわり、

世界的に有名なプラド美術館、エル・グレコ、ベラスケス、ゴヤはじめ世界中の絵が展示されています。私はベラスケスのラス・メニナス(女官たち)をぜひ見たい。皆様は着衣のマヤですか。ここではルーブルと同じく三時間以上必要ないです。

ピカソの「ゲルニカ」は国立近代現代美術館にあります。ティツセン・ボルネミッサ美術館は個人のコレクションでは英国のエリザベス女王に次ぐ規模を誇っている程です。三つのフロアを見てまわると、ヨーロッパの美術史を一覧できる仕組みになっています。

その他、市内観光や自由行を考えております。なお具体的なコースプランはこの会報が出る頃には決定していると思えますので、スペイン旅行にご関心をお持ちになりましたら資料請求を鷹山宇一記念美術館内、友の会事務所までお願いいたします。

マドリッドのスペイン広場に老馬ロシナンテにまたがりサンチヨ・パンサを従えて進むドン・キホーテの像があります。

見果てぬ夢を追い、情熱の国、スペインへ行きましょう。

担当：盛田 恵津子

友の会の研修旅行。できるだけ多くの人の参加できる日帰り圏の美術館を対象に会を重ねてまいりました。

それはそれで結構だが、せっかくなので組織があるのだから夢があってもいい、との声が寄せられ、たたき台としての試案を出してみました。実現するとしてももちろん費用は全て個人負担(積立をする事になるでしょう)これからが正念場です。



今年も美術館で
お茶が行われました
ありがとうございました



① 淡交会十和田青年部のみなさん
② 御園棚で立札のお手前
③ 来館の皆様へ一服
④ 七戸町長さんへお茶を一服



一九九八年
四月二十六日

安田勝子同人の二科会会友推挙に寄せて

池田恭三

1

第八十三回二科展に於いて安田勝子同人栄えの二科会会友に推挙されました。

想い出せば第七十五回二科展では、月館れい理事が総理大臣賞受賞されて、安田勝子同人が特選受賞の榮譽に輝いた年でありました。今は亡き当時の支部長石橋宏一郎評議員は、「これで二科青森支部もマンネリ化を打開して、創作に活力が出るでしょう」と喜んでおられた笑顔が鮮明に脳裏に焼き付いています。

子同人もその教えの賜で、会友推挙につながったと思います。

これも間接的、直接的に鷹山宇一記念美術館々長始め諸先生方の御厚情によるものと深く感謝申し上げます。有り難うございました。

3

二科青森支部同人もお互いに切磋琢磨し独自の世界を創り出したいと念じて、制作活動に励みたいと思っております。

今後ますます友の会の御発展と御活躍を心からお祈り申し上げます。

二科青森支部長

2

当時の、安田勝子同人の受賞作「ピエロのメモリ」の評は、天野三郎理事で、「少々粉っぽいのが気になるが、ピエロと馬と鳩をあしらった、女性らしい心の優しい絵である。思ったより絵の具を重ねてあるのに驚く。色の純度を保ちながら色面の勉強もして欲しい」との評価をいただきました。先生の教えと、また七戸町立鷹山宇一記念美術館創立と同時に、春季二科展が開催されることになり、毎年御来席の、二科会理事評議員先生から一人一人親切な御指導をくださり、安田勝



春季二科展 今年も多くの方にボランティアのご協力をいただきました ありがとうございました

ボランティア時間の活用について

福田 幸男

当美術館に冠せられて鷹山宇一画伯は、私の父の同級生である。父は、それをいつも自慢していた。

私は、三年ほど前に当美術館に友の会があることを知り、仲間に加えさせていた。

以来、特別展の際には、要請に応じ、友の会会員の当然の責務と心得て可能な限り積極的にボランティアに参加するように心掛けていた。

このたび、その半日なり一日のボランティアの時間をどのように活用しているかについて、何か書けという課題をいただいた。

以下は私の活用法である。

私は趣味の一つとして俳句を作っているのでボランティアに来るときには必ず何冊かの月間俳誌か、句集単行本などを持参する。時には私の加入している結社からの選句資料や鑑賞依頼文のこともある。その効用をもっともらしく理由づけてみる。

- ① 静粛であること
- ② 一人の時間を持てること
- ③ 電話や、来客、家事などに煩わされることがない

などである。

特に、選句や、鑑賞文の作成、原句の推敲など、電話や来客、家事等のために思考が中断されることなくそれらの作業に集中できるのわたしにとって最も有難いことの一つである。

また、句集や俳誌を読んでいるうちに、作句上の技術的なことや自らのマンネリ化した発想の転換を図ることもできる。さらには、読んだ句に触発されて句が面白いように沢山出来ることもある。これは、ボランティアの褒美に神様から授かったものと思っている。

二科展ボランティアをして K・M(高三)

作者の心や願いを表現した作品と、それを熱心に見る来館者を、私は椅子に座りながら眺めていた。

5月の連休の4日間のみだったが、初めてボランティアとして監視員をした。ずっと座っているだけで動かない仕事。尻が痛い。

つまらないと思っていたが、ふと、そうでもない気がついた。意外と、そばを通る人を眺めるのは面白い。静かにうつむきながら、大勢の通り過ぎる人を観察してみた。

これを推敲するのがまた楽しみなのである。来客が途絶えたとき、覗かせて貰った展示作品の絵や写真にまつわる俳句が、ふっと浮かぶことである。この美術館でのボランティアは、その意味で、ボランティアという仕事をしながら私の第二の作句工房と呼べないこともない。

今後とも、事情の許す限り多少の無理をしてもこの貴重な時間を積極的に活用させていたいただきたいと考えている。

友の会会員

大半の人は、作品を見ている時、ゆったりと、時には立ち止まって鑑賞していることに気がついた。

絵や彫刻、音楽などの「芸術」と言われるものは、人の心を豊かにするとよく言われるが、大勢の人達を見てみると、そんな「豊かにさせる何か」を感じているように思える。不思議な気がした。

ボランティアを終えると、私は毎日自転車で牧場を通って帰って行った。

絵を描けたなら、この5月の牧場を描いてみるのもいいかな、と思えた。

(友の会会員の家族)

美術館まで徒歩2分 七戸文化村停留所が できました



急行・特急・各駅すべて止まります
青森行(急行・特急)、野辺地行(各駅)、
まかど温泉行(各駅)
十和田市行(各駅・急行・特急)、
八戸行(急行)

鷹山宇一デッサン(複製)
【額ナ30×25cm】



額入り
5,000円

好評発売中！！

今回の会報はあまりに記事にすることが多く、増ページをしても収まりきらずとても苦労しました。毎号字が多すぎるのでは、とのご指摘をいただいたので、注意しているのですが、また活字だらけと言われそうな会報になりました。申し訳ありませんが、それだけ当美術館をめぐる話題が豊富だということ、会員の皆様のご理解をいただきたいと思っております。紙面でも報告したとお

り、春季二科展・鷹山先生の卒寿展への研修旅行・通常総会・アントニオガウディ展の開催・国際写真サロン展など次々と会員の皆様にお知らせしなければならぬ事業が続きます。説明が不足らずになつていくかも知れません。そのようなときはどうぞお気軽に美術館までお問い合わせ下さい。なお会報は、学芸員が編集する美術館報(NEWS & REPORT)と一緒に発行していますが、会報の部分にはページ番号をふることにいたしました。

今回突然に友の会よりアンケートお願いしましたが、たくさんのご回答をお寄せいただき感謝申し上げます。研修旅行や友の会のあり方に率直なご意見を頂戴し今後の会運営の参考とさせていただきます。会員の皆様様々なお考えの現況報告として、結果をまとめてみました。有効回答は35通で、回答率18%になります。まず質問Aとして、今までの研修旅行に参加された方

研修旅行などについて アンケートをお願いしました ご協力ありがとうございました

の回答は8名で、これまでの延べ参加人数100余名を考えると参加したことのない方の回答が中心と考えられます。

ご指摘がありました。C.不参加の理由は日程の都合がつかなかったことと入会時期のためが大半でしたが、集合場所が遠いためとい

E.一泊研修は東北地方・と関東地方が多いようです。F.研修に対する意見要望として、今後も実施を期待するが事前の説明や遠くの人を考えた企画を望みたいとの回答がありました。

また企画を望みたいとの回答がありました。

次に質問B.研修旅行の利点については、料金面・情報面・交通面・学習面それぞれにメリットを感じています。多くの場所を廻るとつかれるだけで心に残らないとの

う答えもありました。D.日帰り研修の候補地は県の内外があげられましたが県内で開催される企画展等には配慮すべきとのご指摘をいただきました。

さて会報紙面でもご紹介しているスペイン旅行の企画については、唐突と感じられた方もおられたようです。しかしながら実現するのであれば候補地としては理解を

得られるように思われます。費用については最大35万円・期間も最大で10日間というのが限度のようです。友の会からの補助はあるのかとの質問もありましたが、会の設立趣旨から考えて、仮に実現するとしてももちろん費用は全て個人負担(積立をする事になると思います)ということになります。

最後に、友の会全般について様々なご意見ご要望をいただきました。紙面に紹介できませんが、いずれも事業の充実と美術館へのいっそうの協力を求められております。今後ともご意見を参考に活動を展開していきたいと思っております。ご協力ありがとうございました。